

ミカン生育情報

千葉県
平成30年12月号

平成30年11月の気象

平成30年11月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は、第1及び第5半旬を除く4半旬で平年より高かった。月平均気温は14.0℃で、平年より0.8℃、前年より0.4℃高かった。

降水量は、第1、第3及び第5半旬では平年より多かったが、その他の3半旬では平年より少なかった。月合計は162mmで、平年の109%、前年の56%であった。

日照時間は、第1、第2及び第4半旬で平年を下回ったが、その他の3半旬では平年を上回った。月合計は135時間で平年の93%、前年の87%であった。

表1 平成30年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	14.5	15.4	16.1	33	25	33	17	25	38
2	17.6	14.6	17.4	13	34	10	14	25	27
3	14.1	14.0	14.3	24	18	90	26	24	23
4	12.9	12.3	10.3	5	23	16	21	24	16
5	10.9	11.7	10.4	71	22	141	27	24	33
6	13.7	11.2	12.9	16	26	0	30	25	19
平均/計	14.0	13.2	13.6	162	148	289	135	145	156

果実の生育

11月30日現在の果径を表2に示した。

横径は、「大津4号」及び「青島温州」の2品種を3地区の平均で見るとそれぞれ7.9cm、7.7cmであった。平年と比較するとそれぞれ5%、4%大きかった。

縦径は、「大津4号」及び「青島温州」の2品種を3地区の平均で見るとそれぞれ5.1cm、5.0cmであった。平年と比較すると「大津4号」では2%大きかったが、「青島温州」では同程度であった。

果形指数は、「大津4号」及び「青島温州」の2品種を3地区の平均でみるとそれぞれ1.5、1.5であった。平年及び前年とは同程度であった。

暖地園芸研究所内では11月上旬から猪の食害が見られた。青かび、緑かび病対策の殺菌剤は早生温州に11月上旬に散布し、果実腐敗や落果は散見される程度であった。

表2 果実の生育（11月30日の果径）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	8.2	7.4	7.7	5.6	5.1	5.2	1.5	1.5	1.5
	千倉地区	7.5	7.5	7.5	4.6	4.9	4.8	1.6	1.5	1.6
	暖地園研	8.0	7.7	7.5	5.1	5.2	4.7	1.6	1.5	1.6
	平 均	7.9	7.5	7.6	5.1	5.0	4.9	1.5	1.5	1.6
青島温州	三芳地区	8.1	7.4	7.0	5.5	5.1	4.8	1.5	1.5	1.4
	千倉地区	6.9	7.3	7.0	4.4	5.0	4.6	1.6	1.5	1.5
	暖地園研	8.0	7.6	7.9	5.1	5.1	4.9	1.6	1.5	1.6
	平 均	7.7	7.4	7.3	5.0	5.0	4.8	1.5	1.5	1.5

各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、鳥害、落果、台風害により調査果実を変更した樹がある
果形指数は、横径/縦径

普通温州の果実品質

11月30日現在の「大津4号」及び「青島温州」の果実品質について、3地区の数値及び平均値を表3に示した。

着色は平年及び前年より早かった。

糖度は平年及び前年と同程度であり、酸度は平年及び前年より低かったため、本年度の甘味比は平年及び前年より高かった。

また、果肉歩合は平年及び前年と同程度であった。

本年度は、着色の進みが早く、減酸も早い。食味は良好となっている。浮皮は散見される程度であった。

表3 普通温州の果実品質（平成30年11月30日収穫調査）

品 種	調査地	着色程度			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	9.9	7.9	6.4	11.0	10.0	9.7	0.69	0.87	1.00	15.9	11.7	9.7	77.9	75.5	77.6
	千倉地区	9.8	8.6	7.9	9.9	10.2	9.8	0.82	0.94	1.01	12.1	11.0	9.7	75.3	75.8	75.5
	暖地園研	9.5	7.9	8.9	10.1	10.0	10.4	0.70	0.89	0.88	14.3	11.5	11.8	76.4	75.1	76.4
	平 均	9.7	8.1	7.7	10.3	10.1	10.0	0.74	0.90	0.96	14.1	11.4	10.4	76.5	75.4	76.5
青島温州	三芳地区	9.5	7.3	7.4	9.6	9.1	8.9	0.74	0.92	0.90	13.1	10.0	9.9	74.8	74.6	74.0
	千倉地区	9.3	8.1	8.8	9.5	9.7	9.1	0.69	0.94	0.87	13.7	10.5	10.5	74.9	74.3	74.0
	暖地園研	8.5	7.6	8.1	9.3	9.6	9.6	0.78	0.89	0.83	12.0	10.9	11.6	74.8	75.7	74.1
	平 均	9.1	7.7	8.1	9.5	9.5	9.2	0.73	0.92	0.87	12.9	10.5	10.7	74.9	74.9	74.1

平年値は平成10～29年の平均値

甘味比＝糖度／酸度

果肉歩合＝果肉重／1果重×100

12月～3月の栽培管理

樹勢の回復

本年は裏年傾向であるが、樹によっては過着果になっている樹がある。着果により樹勢の落ちている樹には、収穫後に液肥を散布する。

防寒対策

気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。樹体を強い寒風から守るため、防風垣や防風ネットを設置する。斜面下部など冷気のたまりやすい場所の防風垣は下枝を切り冷気を逃がす。特に幼木や中晩柑、レモンについては、寒さに弱い傾向があるため、より防寒対策に注意を払う。

また、果実は寒害で食味が低下するため、袋掛け等の防寒対策をするか、収穫適期を迎えた果実は寒さを受ける前に収穫する。

病虫害の防除

カイガラムシ類、ミカンハダニ及びミカンサビダニの防除のために果実収穫後の12～3月の内、厳寒期を避け暖かい日にマシン油乳剤（97%）の60～80倍液を散布する。

ただし、樹勢の弱い樹では散布を避ける。なお、ミカンハダニに対しては、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に100～200倍液を散布する。

カタツムリ、ナメクジ類の発生を抑制するため、園内で潜伏場所となるような不要な石積みやシート類、木材を除去する。園周辺の茂みからの侵入も考えられるため、園周辺部分の整理・清掃も行う。通風が悪く、湿った園では発生しやすいため、排水溝の清掃を行い、水はけを良くする。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《生育情報の問合せ先》千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>